

< 豊明市特別職報酬審議会（第1回）議事録 >

1 日 時

平成 19 年 1 月 24 日（水）

午前 10 時から正午まで

2 場 所

豊明市役所 東館 3 階 会議室 10

3 出席者

委 員：10 名（相羽幹夫、伊藤幸雄、木村文柄、鈴木正人、
竹内節子、都築和男、遠山仁照、内藤昌裕、
中野敏宏、森田哲夫）

事務局：企画部長、企画部次長兼人事秘書課長、人事秘書課長補
佐（人事担当）、人事・給与担当係長、平下専門員、矢野主
査

4 欠席者

なし

5 市長あいさつ

お忙しい中、委員をお引き受けいただき感謝します。財政が厳しい時代。特別職報酬等の決定について白紙で諮問するものです。資料に基づく説明を聴き、現状や他市とのバランス等も考慮のうえご判断をいただきたい。

6 辞令交付及び委員紹介

代表で相羽幹夫委員へ市長より辞令交付。

各委員が自席にてあいさつ。

7 会長選出

委員の互選により都築和男委員に決定。

8 会長あいさつ

大変荷の重い仕事ですが、皆様のご協力をいただき進めてまいりたい。本審議会は市長からの諮問に基づき特別職の報酬等について意見をまとめる、大変重要な審議会の一つです。

9 会長職務代理選出

会長の指定により伊藤幸雄委員に決定。自席にてあいさつ。

10 諮問書手交

市長より会長へ諮問書朗読のうえ手交。(手交後、市長退室。)

11 審議

(会長) 審議に先立ち、本審議会の公開について事務局の報告を求めます。

(事務局) 公開指針に基づき平成14年度の本審議会にて決定された事項を報告。

- ・傍聴は認めない。(率直な意見交換、意思決定中立性確保のため。)
- ・資料2について、1ページの各委員の住所、11ページの一般職最高号給者の欄は非公開。(個人情報のため。)
- ・資料3については非公開。(他団体情報のため。)
- ・審議の要旨については発言者を単に「委員」として公開。本市ホームページ上でも公開。
- ・諮問書及び答申書は公開。

(会長) 公開について本年度も同様とすることにご異議は。

全出席委員異議なし

(会長) 配付資料について、事務局の説明を求めます。

(事務局) 資料2、3及び4に基づき説明をなす。

(休憩 10:50~11:00)

(会長) 審議に関連する事項として、第4次行政改革の進捗状況等について、事務局から何かありますか。

(事務局) 限られた財源の中、総花的でなく政策を選択。国からの移管、少子化対策等で新たな支出。歳入については、いわゆる三位一体改革により交付金減。市税収入の増が今後も続くか予断を許さない状況。歳出については、扶助費の伸び、一般会計から特別会計への繰り出し等の状況がある。改革は当然に必要であり、行革についても、第4次期間中に更なる行革として集中改革プランを策定し、そして現在は第5次行革を策定中。今後も取り組んでいきます。

- (会 長) ざっと資料を見た印象としては、いままでの事業を今後
も同様に継続した場合、平成20年度にも赤字財政となる。そのよ
うな状況もお含みいただき、各委員からの質問・意見等をお願いし
ます。
- (委 員) 収入役廃止、議員定数が22名になることによる歳出減に
ついて、額のわかる資料の提出を求める。
- (事務局) 収入役は、本市においても平成19年6月末をもって廃止
され、7月より一般職による会計管理者がその事務にあたる。議員定
数については、従来26名であったものが平成19年4月の改選より
4減され、22名となります。資料2の11ページに記載する議員1
名あたりの報酬年額の4名分です。
- (委 員) 経費は報酬だけではない。視察、政務調査費等も含めた
全体的な数字が必要。
- (事務局) 即答は無理。本日この場での報告はできかねるので、次
回の審議があれば、その時に資料として提出します。
- (委 員) 資料2の2ページ等にある期末手当の月数について、平
成16年度は3.30ではなかったか。
- (事務局) 平成17年の人事院勧告に基づき3.35となりました。
- (委 員) 議員への退職手当支出については、18年度で見込んでい
るか。
- (事務局) 議会事務局によると、退任議員が年金を一時金として受
け取る場合も、市議会議員共済会からの支給であり、本市からの支
出はありません。
- (委 員) 財政が厳しいとの説明だが、資料2の13ページに記載の
財政力指数が年々上昇してきている理由は何か。
- (事務局) 財政力指数と基金の取り崩しは連動していません。資料4
にある計算式により求められ、交付税交付金の算定のために用いら
れます。全国的な平準化、国税を全国に配分するための合理的な計
算を総務省が行う中で決まるものです。
- (委 員) 単年度数値で、だんだん1.0に近づいている。財政状況

が良くなっているということではないのか。

(事務局) 交付金を他の地方にまわすためにも、本市は基準財政収入額を多めに見られる地域の中にあるということです。

(委員) 確かに愛知県は 1.0 以上の団体が多い。比較的大きなところの指数が少なかったりもする。豊明市等はお金をなるべく使わずに辛抱しているので、上昇してしまう傾向があるのかもしれない。また、財政上の問題点として、人件費比率が高い。職員構成は近隣団体と似ているが 52~59 歳の職員が多いので、他の団体とは違う特異な問題がある。繰入金が多いから苦しいのではないか。

(事務局) いろいろな角度から人件費は見られます。歳出の 25% が人件費。職員の平均年齢が高い。職員数が多いというのは、これまでの行政施策を反映しています。消防も直営。清掃事業を完全に民間委託している団体もあるが、本市は 5 名の正規職員がいる。給食調理、公立保育園など。団塊世代の退職として、これから 5 年で約 100 名が退職。現在の全職員数の 20% 近くになる。退職者数と同じだけ採用しないよう、計画的に削減していく予定です。

(委員) 給料表の級が 6 級と 7 級の職員で約 47% を占めており、かなり大きい。実際の担当者が少なくなっている。収入をいかに増やしていくか。住民税は高い方。市街化区域の線引きを見直す等の方策も必要。他市と比べての現状は、人口は中位、財政は下位グループ。

(事務局) 市制施行時の採用増の影響もあり、いますぐどうこうできないのは確かです。固定資産税と個人市民税で税収の 8 割以上を占め、法人市民税は 6 億円程度。景気が悪い影響は小さいが好景気の恩恵を受けにくい。施策の見直しにも 5~10 年かけなければならない。交通の便が良いという利点を生かした受け皿づくりのため、総合計画の中で市としての計画をしていくべき。1 社、超優良企業が来ると様変わりする面もあるかもしれない。

(委員) 農地が多すぎるのではないか。開発をしていない。産業のバランスを考えないといけない。一般企業でもそうだが、決算上

黒字でも、資金繰りがつかないと倒産することがある。住民税は、17年度の単年では赤字ではなかったか。国ではプライマリーバランスと言っている。はやくバランスシートをつくってキャッシュフローを考えてほしい。

(事務局) バランスシートは作成しております。

(委員) いままでの議論に出てきた数値は配付された資料の中にあるのか。先行きが不透明であり、将来を見据えた判断が必要。世間では景気回復と言っているが、本当に一部の大企業の景気が良いだけ。中小企業の利益は上がっていない。これがさらに下降気味になってくると、市政にも悪影響がでる。

(委員) 18年度から3ヶ年程度の税収の見通しがわかるような資料を用意してもらいたい。

(会長) ずいぶん時間も経過しましたし、委員から追加資料の要望もありました。本日の審議はこれまでとし次回の日程を決めたい。

(事務局) 答申をされるのであれば市長の予定の確認も必要になります。

(委員) 昨年度も同様の検討があったが、審議会当日は審議結果をまとめるまでとして、答申は別の日に会長にお任せすることも可能なはず。

(会長) 開催日に市長の予定が合わない場合、そのようにしてもよろしいか。

全出席委員異議なし

(会長) では、本日はこれで散会し次回は2月5日(月)午後1時00分より本審議会を再開することとしてよろしいか。

全出席委員異議なし

(会長) 異議なしと認めます。次回には、答申をまとめたいと思いますので、資料等の検討をしたうえで各委員の結論をお聞かせください。本日はこれで散会します。お疲れ様でした。

正午 散会